

前回委員会（第5回）の振り返り（委員のご意見に関する本市の考え方等）

※委員意見はゴシックで表記

(1) 学校の規模適正化について（近隣他市の事例の研究、ニュータウンに近い立地、コミュニティの観点、子どもたちの生活・楽しく学校に通えているかどうか）

鳥飼地域の児童生徒数は減少傾向にあり、国が定める標準学級数（12～18学級）をすでに下回っている学校もあるなど、小規模校化が進んでおります。今後さらに小規模校化が進むと中学校での単学級化や1学級あたりの児童数が一桁になることも想定され、教育活動に大きな影響が出てくると考えられます。

以上のことから、小規模校化の解消に向けた取組は必須であると認識しております。委員ご指摘のとおり、鳥飼地域は昭和40年中頃からの土地区画整理事業により市街地が形成されたものであり、他の自治体においてもすでに課題として取り組んでいるニュータウンでの小規模校化への対応について先進的なものを参考にしながら、様々な魅力ある学校の在り方を研究し、子どもたちのことを最優先に考えながらも、本市のコミュニティのあり方を踏まえ、市としての方針を検討してまいります。

(2) 少子高齢化に対応した施設の複合化について。（様々な人々が集うことができる居場所づくり。）

子どもや高齢者だけではなく、子どもの親、障害者、NPO等で活動している方など様々な人々が集うことができる居場所の重要性については十分認識しております。学校施設や他の公共施設の複合化など新たな公共施設の整備を検討するとともに、既存公共施設の機能面の見直しや地域の資源である公園や淀川河川敷などの活用方法の見直しなど、ソフトでの対応についても、様々な人々が集うことができる居場所としての拠点整備について検討してまいります。

(3) 鳥飼地域以外から引っ越してきてもらえるまちづくりについて。（鳥飼地域の義務教育の学習レベルアップ、地縁コミュニティ以外の流入）

子育て世帯にとって市の「教育」への取組み状況は、移住・定住先を決めるうえで重要な要因の一つと考えており、これまでも学力向上の取組として学習サポーターの派遣や摂津SUNSUN塾の開設など、様々な施策を実施してきております。

これまでの施策も一定の成果は出てきていると考えておりますが、引き続き更なるレベルアップを目指すとともに、摂津市の教育の良さをしっかりとPRしてまいります。

また、鳥飼地域以外から引っ越ししていただくためには、交流人口（地域に訪れる人）や関係人口（地域に係わる人）を増やすことが重要であり、鳥飼地域を知っていただく、鳥飼地域を理解していただくことができるコミュニティやにぎわいづくりを検討してまいります。

(4) 学力を上げるための学校の取組も重要であるが、地域単位でどのような人に住んでもらいたいか、求める住民を明確にしたまちづくりをすると、相乗効果で学力も上がり、地域も良くなるのではないか

これまで鳥飼地域の現在の特徴を踏まえたゾーニング案を提示させていただいておりますが、そのゾーン毎の特徴を理解し、将来ビジョンを共有し、地域とともに行動いただける住民

が増えることが理想と考えています。

現在、鳥飼地域にお住まいの方々も含めて、今後100年先を見据え、どのようなまちを理想と考え、それに向けた行動として何が必要かについて、地域の方々と意見交換しながら、鳥飼地域の将来目指す姿を検討してまいります。

(5) まとまった面積の住宅地を開発することについて。

委員から、鳥飼地域に庭付きの家が少ないというご意見もありました。鳥飼地域は狭隘道路が多く、歩行者が安心して歩ける、防災の観点からは、消防車・救急車が入れる、円滑な避難ができる道路空間の確保は必須と考えております。また、ゆとりある安心・安全な住空間の創出についても、大阪近郊である立地特性を踏まえた鳥飼のブランド力を向上させるために必要であると考えており、まとまった面積の住宅開発は、これらを解決する手段の一つであると考えます。地域にとって最善の方法について、他市の事例等も参考にしながら検討してまいります。

(6) ベビーカーでも移動しやすい大きめのバスや低床のバスを走らせる等の対策

バス交通は鳥飼地域の重要な交通手段の一つであり、今後、子育て世代の呼び込みや高齢社会の進展を踏まえると、低床バスの導入など乳幼児や高齢者に優しく安全安心に利用できる交通サービスの提供は重要と考えており、引き続き民間事業者とも協議・検討してまいります。

(7) 地域で活動する各団体をつなぐ（横ぐし）取組について。やりたいことがすぐにできるまちづくり。

地域で活動する各団体間をつなぐ役割として、委員からもご意見いただいている中間支援組織の有用性については認識しております。

現在はこの機能を市の自治振興課が担っておりますが、市民の皆様のお力で地域コミュニティの活性化やにぎわいづくり、団体同士のネットワーク形成を行うことは大変重要であると考えており、他市の事例等も参考にしながら、導入についても検討してまいります。

(8) 鳥飼地域から転出する理由と、定住する理由について。

令和元年度版摂津市統計要覧によれば、転入してから1年未満で引っ越しをする人は全体の約18%であり、5年未満までの累計者は全体の半分以上を超えます。転出先は大阪市が全体の約18%であり、大阪市を含めた北摂地域で全体の約43%を占めます。

平成27年度の「摂津市の人口移動に関するアンケート調査」によれば、摂津市からの転出の主な理由は、「仕事の都合（就職、転職、退職など）」、「住宅の都合（広さ、間取り、設備など）」、「結婚のため」であり、転入の理由についても同じように「仕事の都合」がもっとも多く、次いで「住宅の都合」、「結婚のため」となっています。

また、同調査によると、摂津市の住みよさの評価は、平成20年度に比べて平成27年度は「住みよい」、「どちらかと言えば住みよい」を合わせれば39.5%から56.1%に増加しており、「住みにくい」の回答は7.4%でした。

(9) 公民連携による企業との連携について。

大東市では公民連携による市営住宅の建替えを行うなど、他市でも行政と民間事業者が協働で公共サービスの提供を行う「公民連携」が進められております。委員からのご意見も踏まえ、他市の事例を参考に、鳥飼地域の各エリアにおいて具体的にどのような取組ができるのか、地域の方々の意見も聞きながら検討してまいります。

(10) ライフスタイルと紐づいた取組の記載について。

鳥飼グランドデザインの将来イメージを、住民の皆様を含め広くご理解いただくためにはライフスタイルと紐づけた取組の記載は有効と考えます。

このような手法も含め、とりまとめに向けて、広くご理解いただくための表現方法等に検討を進めて参ります。